

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

<北海道熊研究会 会報> 第 105 号 2021 年 11 月 7 日

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

ご意見ご連絡は本紙送信 email ではなく、下記の email へお願い致します

e-mail: [kadosaki@pop21.odn.ne.jp](mailto:kadosaki@pop21.odn.ne.jp)

既報会報の 1~103 号は Website に「北海道野生動物研究所」と入力しご覧下さい

「北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

私(門崎)の熊への対応は、(人的経済的被害を予防しつつ熊を極力

殺さない「人と熊は共生共存すべきである」と言う立

場である。

熊はなぜ市街地に出て来るのか

<熊が里や市街地に出て来るようになった原因(理由)とその対応>

① 熊は本来、身に危害が及ばなければ、あらゆる場所を探索し、利用出来る所は利用すると言う生態(生活状態)の種であるが、身に危害が及ぶような経験をすると、以後その場所の使用を控える。里山で銃で熊を殺し獲っていた時は、

銃での殺戮を恐れて里に出て来る事を控えていた。熊が里やさらには市街地にまで出沒し出したのは、里山で熊を銃で殺獲するのを中止し、檻罠で捕獲するようになって数年経てからの事である。

② 熊は発砲すると**バンと強烈な爆発音がする銃**(散弾銃もライフル銃も強烈音がする)で、脅かされる事を非常に恐れる。銃で狙撃されて、幸い致命傷にならず生き延びた場合は、その後、銃を持った者を見ただけで避難するし、撃たれた場所やその付近には出て来なくなる。

③ これが雌で、後に子を得た場合、母熊はそのような場所を避けるから、母から自立した若熊(母から自立した年の子の呼称)も、そのような場所を警戒し避ける。これが里山であれば、以後その場所から先の人の生活圏には出て来なくなる。これが、里山で銃猟していた当時、熊が里に出て来なかった原因であり理由である。要するに、「①強烈な爆発音がするそれ(銃)で、②殺戮されると言うこの2点」を恐れて出て来なかったのであり、爆発音だけでは、熊は殺されない事を学習し、出て来る。そのことは、1940年代後半から1990年代まで、作物の食害を防ぐ為に、強烈な音が出るカーバイトを使った「八木式爆音器」と言うのが、使われていたが、熊はそこに人が居ない事を知ると、爆破音が出ていても、平然と作物を食い続けた事からも解る。熊は火も音響も恐れない。恐れるのは、「銃の爆発音とそれでの殺戮」である。

開拓が進んで、熊と人の相互の生活圏が画然と分離され始めてからの、人と熊の相互関係を、土地利用と言う観点から見ると、次の3圏に分けられる。①熊の生息圏②熊の出沒圏であり人の居住圏でもある地域、③人の占有居住生活圏。熊を銃で獲殺していた時代には③の地域は勿論、②の場所にも熊は出て来なかった。ところが、②の地域で銃での獲殺を止め、檻罠での捕獲に変更した結果、②と時には③の地域に迄、熊が出沒し出したと言うのが実態である。里や市街地に熊が出て来るようになった経緯は以上である。

熊が里や市街地に出て来る場合には、必ず目的と理由があるから、熊が出沒した場合には、それを的確に探り、人への危険性や経済的被害が生ずる可能性の有無を予測し、ある場合には対応策を決め、実施する必要がある。しかし、私が熊の調査(研究)を始めた1970年以降、里に出て来た熊が、人を襲ったり威嚇した例は全く無く、無害であったから、里や市街地への出沒に対しては、大騒ぎせず、電気柵での対応をすべきである。

## 札幌市(行政区画の札幌圏)での熊の生息・出没の経年実態

### ＜熊が札幌圏の里や住宅地に出るに至った経緯＞

①門崎允昭の調査では、1972年から1988年の17年間に、45カ所で熊は銃器で捕獲（捕殺）されて居るが、その場所はいずれも、＜銭函川上流部～奥手稲山～手稲山～永峰沢川上流部～砥石山～砥山ダム＞を結んだ西部地域一帯と、＜滝野～常盤～焼山～夕日岳～朝日岳(定山溪)＞を結んだ南西部地域一帯の山野のみで、この間、この境界を超えて東部地域に、熊が出没する事はなかった。

②その後、1989年から1997年の9年間、札幌圏では一頭も熊を捕殺しなかった。

③1998年から捕獲を再開した後の猟法が銃器では無く、檻罠になった（銃器での捕殺は希

以後、次の経過を辿り、熊が人里に、近づくようになり出した。

### ＜札幌圏での1977年以降の熊の出没の経緯＞

私は1977年～2006年迄の30年間分の札幌市管内での熊の経年的出没一覧を持っているが、これは私が聞き込みをして得た資料が殆どだが、それを通覧すると、熊が経年的に出没域を拡張してきた状況が解る。

1979年は1件：10/5 西区福井の中ノ沢の道で、散策中、前10時頃4-5歳の熊を日撃。  
・1993年以前は熊の出没は、奥山と里山の境界辺りのみの事で、里山への出没は稀であった。

### ＜1994年以降、里山(公園等)に時々出没が見られ始めた＞

1994年は1件：6/14 南区簾舞の簾舞中学校から道を隔てた雑木林に、若熊の糞あり。

1998年：6月末から南区白川地区で、母子3頭の熊を、夜度々目撃する。

1998年以前は、熊の目撃情報は、稀であったが、1999年から急増し、

1999年は4件：4/17 定山溪温泉のホテル街、北側直ぐの国有林で、朝方、熊目撃。  
5/21 豊滝491の市道で(豊滝小学校から350m地点)で、前7:40頃、車から熊目撃。  
同日、中山峠から230号国道を定山溪温泉側へ、約10km地点で、熊成獣を、車から13時頃目撃。  
9/21 国営滝野スズラン公園駐車場で、バス運転手が、10:15頃、熊体長約1.3mを目撃。

2000年は5件：6/8 豊滝市民の森で、11時と14時頃の2度、巡視員が体長1.3m程の熊目撃。6/18 定山溪無番地、夕日岳登山道に、熊の糞あり。7/22 西区平和の左股川付近で、前6:30頃母子3頭を、車で目撃。9/28 豊羽鉾山付近で、若熊を、1930頃車で目撃。10/27 中山峠から230号国道を定山溪温泉側へ、約15km地点で、母子2頭熊を、車から前10:30頃目撃。

さらに、2001年以降、増加し、

2001年は8件：4/26 定山溪「中ノ沢」で、山菜採りの3人が、前9時頃、熊成獣に遭遇。

5/6 定山溪の国有林(2483と2484林班の境界)で、工藤憲三氏53歳が、山菜採りに行き、♂8yr 3mo 熊に襲われ死亡。6/13 南区「豊滝市民の森J」で熊糞あり。7/19 手稲山、軽川の千尺コース下の、旧道で、熊成獣を目撃。8/6 神威岳登山道入口から、約1.5km地点で、熊を目撃、大きさ不明。9/7 西区西野すみれ園近くの山中で、体長1m程の熊を前5:50頃目撃。以後数回目撃情報あり。9/14 南区豊滝の市道で、前5:15頃、体長1m程の熊目撃。9/23 南区、小金湯の山林で、きのこ取り男性が、母子熊目撃、子は体長80cm程。

2002年は9件：5/10 空沼岳登山道(常磐)入口から、約1km地点で、熊成獣を後4:00頃目撃。6/1 西区、平和の山林で、前5:30頃、熊成獣を目撃。6/11 230号国道を定山溪から西に約1km地点で、21:20頃横断する熊を目撃、翌日の18:20頃も同所で目撃。8/25 西区西野9条9丁目、西公園奥約100mに、16:40頃、熊目撃、大きさは未確認。8/27 定山溪国道温泉東1丁目付近で、作業員が、前8:30頃、体長1m程の熊を目撃。8/27 簾舞の山林で、きのこ取りの男性が、16:10頃、熊成獣を目撃。10/9 中央区幌見峠頂上付近で、前5時頃、母子2頭(子は1m程)を目撃。10/19 南区、真駒内小学校から、山側へ0.5km地点で、熊成獣を、前5:45分頃、車から目撃。10/23 「盤溪市民の森」で、1.8km地点に、熊の糞を見つける。

2000年以降、10ヶ年掛けて、熊の行動圏が徐々に東部と北部に拡大し、2010年頃から2013年には、手稲平和、手稲福井、西野、盤溪、豊滝、簾舞、白川、藤野、常磐、石山、滝野、藻岩、円山、中の沢、川沿、真駒内、などに出没するようになった。

2011年と2012年には、円山、藻岩、川沿、真駒内、そして南区の電車通りにまで、主として夜、熊が出没した。(それ以来、現在に至って居る)。この事は、道内各地での、市街地への熊出没の原因と理由にも、当てはまる。 (了)